科目名				単位数	2	時間数	30			
授業形態	講義	対象学生	PT 3年	学期	前期	教員実	聚経験	有	使用教室	302教室·治療室
授業概要	基本動作のメ と病態・障害	基本動作のメカニズムを理解するための、①運動力学・生体力学の基礎知識と動作への解釈、②正常動作の生体力学的メカニズムとその解釈、③疾患特有の姿勢・動作と病態・障害像との関係、④疾患・障害別基本動作分析のチェックポイントについて学習する。								
一般目標	・基本動作(額 ・主な疾患・障	基本動作(寝返り・起き上がり・立ち上がり)が遂行可能となるメカニズムを修得する。 主な疾患・障害の基本動作分析を修得する。								
テキスト 参考書等	動作分析 臨	床活用講座	(メジカルビュー社	:)						

知識(認知領域) ・基本動作について分析し、説明することができる。

技術(精神運動領域)
・基本動作について分析し、模倣することができる。

・授業に出	極的に参加することができる。(周囲と協力す 席する。							
回数	授業内容	授業目標						
1	寝返り基礎	寝返りの正常パターンについて理解し、説明することができる。						
2	寝返り評価	寝返りの評価をすることができる。						
3	寝返り動作分析	寝返りの分析ができる。						
4	寝返り動作分析課題作成	症例を通じて寝返りの分析ができる。						
5	寝返り動作分析課題作成	症例を通じて寝返りの分析ができる。						
6	起き上がり基礎	起き上がりの正常パターンについて理解し、説明することができる。						
7	起き上がり評価	起き上がりの評価をすることができる。						
8	起き上がり動作分析	起き上がりの分析ができる。						
9	起き上がり動作分析課題作成	症例を通じて起き上がりの分析ができる。						
10	起き上がり動作分析課題作成	症例を通じて起き上がりの分析ができる。						
11	寝返り、起き上がりまとめ	寝返り、起き上がり動作についてまとめることができる。						
12	立ち上がり基礎	立ち上がりの基礎について理解し説明できる。						
13	立ち上がり観察課題作成	立ち上がりの観察ができる。						
14	立ち上がり評価	立ち上がりの評価をすることができる。						
15	立ち上がり動作分析課題作成	症例を通じて立ち上がりの分析ができる。						

	成績評価方法											
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準							
定期試験	0			100	優(3):80点以上							
小テスト	0			評価なし	良(2):70点以上							
宿題授業外レポート		0		評価なし	可(1):60点以上							
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得							
発表•作品		0		評価なし								
演習		0		評価なし								
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数							
担当教員 加藤 善範 実務経験紹介 理学療法業務の中で、動作能力向上アプローチに基づいた動作分析の経験あり。												

科目名				単位数	2	時間数	30			
授業形態	講義	対象学生	PT 3年	学期	前期	教員実	聚経験	有	使用教室	302教室·機能訓練室
授業概要	歩行動作のメ と病態・障害	歩行動作のメカニズムを理解するための、①運動力学・生体力学の基礎知識と動作への解釈、②正常動作の生体力学的メカニズムとその解釈、③疾患特有の姿勢・動作 と病態・障害像との関係、④疾患・障害別歩行分析のチェックポイントについて学習する。								
一般目標		・歩行動作のメカニズムを修得する。 ・主な疾患・障害の歩行動作分析を修得する。								
	観察による歩行分析(医学書院) 動作分析 臨床活用講座(メジカルビュー社)									

知識(認知領域) ・歩行動作について分析し、説明することができる。

技術(精神運動領域)
・歩行動作について分析し、模倣することができる。

能座(建辛)	度(情意領域)							
	「極的に参加することができる。 (周囲と協力で	する、周囲に配慮する、周囲と討議する)						
回数	授業内容	授業目標						
1	正常歩行における下肢と体幹の役割	正常歩行における下肢と体幹の役割について説明できる。						
2	正常歩行における関節運動と機能	正常歩行における関節運動と機能について説明できる。						
3	正常歩行のメカニズム	歩行のメカニズムについて説明できる。						
4	逸脱歩行の原因①(足関節)	逸脱歩行の原因(足関節)について説明できる。						
5	逸脱歩行の原因②(膝関節)	逸脱歩行の原因(膝関節)について説明できる。						
6	逸脱歩行の原因③(股関節)	逸脱歩行の原因(股関節)について説明できる。						
7	逸脱歩行の原因④(骨盤・体幹)	逸脱歩行の原因(骨盤・体幹)について説明できる。						
8	評価の意義と目的	逸脱歩行に関連した評価の意義と目的について理解し、説明できる。						
9	脳卒中に関連した逸脱歩行に対する 治療アプローチ	脳卒中に関連した逸脱歩行に対する治療アプローチの方法について説明できる。						
10	症例検討	症例の歩容を模倣したうえで、評価・介入ポイントを理解し説明できる。						
11	逸脱現象に対するプログラム立案	逸脱現象に対するプログラム立案ができる。						
12	歩行分析のまとめ①	逸脱歩行に対する理学療法について理解し説明できる。						
13	歩行分析演習(症例1)	動画を確認しながら歩行分析ができる。 症例の評価、治療について説明できる。						
14	歩行分析演習(症例2)	動画を確認しながら歩行分析ができる。 症例の評価、治療について説明できる。						
15	歩行分析のまとめ	歩行分析の方法について説明できる。 歩行分析の目的と各種評価との関連について説明できる。						
	•	•						

	成績評価方法										
	知識(認知領域)	技術(精神運動	領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準					
定期試験	0				100	優(3):80点以上					
小テスト	0				評価なし	良(2):70点以上					
宿題授業外レポート		0			評価なし	可(1):60点以上					
授業態度					評価なし	不可(0):60点未満 未修得					
発表•作品		0			評価なし						
演習		0			評価なし						
出席				0	欠格条件	()内はGPA点数					
担当教員 加藤 善範 実務経験紹介 理学療法業務の中で、動作能力向上アプローチに基づいた動作分析の経験あり。											

科目名			単位数	1	時間数	30				
授業形態	実習	対象学生	PT 3年	学期	前期·後期	教員実	務経験	有	使用教室	302教室·治療室
	臨床実習では を学習する。	臨床実習では対象者に対して適切な評価・治療を実施する必要がある。本授業では客観的臨床能力試験(OSCE)を通じて理学療法に必要となる主要な評価・治療方法を学習する。								
一般目標	各種評価、?	各種評価、治療を実施する技術を身につける。								
テキスト 参考書等	· 幸 なし									

知識(認知領域) ・各種評価、治療の方法について説明できる。

技術(精神運動領域) ・各種評価、治療を実施できる。

Marila VIII. da								
態度(情意を ・授業に積り ・授業に出り	極的に参加することができる。(周囲と協力する	る、周囲に配慮する、周囲と討議する)						
回数	授業内容	授業目標						
1	OSCE概要について 第1回OSCEオリエンテーション	OSCEの概要について説明できる。 第1回OSCEに向けて計画を立てることができる。						
2	模倣①医療面接	対象者に医療面接を実施できる。						
3	模倣②反射	対象者に反射検査を実施できる。						
4	模倣③BRSテスト	対象者にBRSテストを実施できる。						
5	模倣④感覚検査	対象者に感覚検査を実施できる。						
6	模倣⑤ROM測定	対象者にROM測定を実施できる。						
7	まとめ、第1回OSCE事前指導	対象者に評価項目を実施できる。						
8	第1回OSCEフィードバック	第1回OSCEの内容を振り返り、課題解決に向けた計画立案ができる。						
9	模倣⑥血圧測定	対象者に血圧測定を実施できる。						
10	模倣⑦MMT	対象者にMMTを実施できる。						
11	模倣⑧形態計測	対象者に形態計測を実施できる。						
12	模倣⑨バランス検査	対象者にバランス検査を実施できる。						
13	模倣⑩運動療法	対象者に運動療法を実施できる。						
14	まとめ、第2回OSCE事前指導	対象者に評価項目を実施できる。						
15	第2回OSCEフィードバック	第2回OSCEの内容を振り返り、課題解決に向けた計画立案ができる。						
		ı						

	成績評価方法										
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準						
定期試験	0	0		100	優(3):80点以上						
小テスト				評価なし	良(2):70点以上						
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上						
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得						
発表•作品				評価なし							
演習		0		評価なし							
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数						
担当教員	加藤 善範、島本 祐嗣、他	実務経験紹介	理学療法業務の中で、理学療法評価の経験あり。(加藤)								

科目名	義肢装具学実習					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	PT 3年	学期	前期	教員実	務経験	有	使用教室	302教室·機能訓練室
授業概要	義肢装具学A 義肢装具が必	義肢装具学A/Bで習得した知識を活用し、実際の操作方法や義肢による歩行訓練、装具を用いた運動療法を身に付ける。 義肢装具が必要な疑似症例を通じて、クリニカルクラークシップ形式の臨床実習で必要なポートフォリオの作成方法を習得する。								
一般目標	義肢の歩行網	度肢の歩行練習、装具療法を行う際の各種評価、治療を実施する技術を身につける。								
テキスト 参考書等	義肢装具学テキスト(南江堂)、参考図書:義肢装具のチェックポイント(医学書院)									

- 知識(認知領域) ・切断者および装具療法が必要な患者の各種評価、治療の方法について説明できる。 ・必要な義肢、装具に関する情報収集、集約ができる。

- 技術(精神運動領域) ・各種評価、治療を実施できる。 ・義肢装具を正しく扱うことができる。

- 態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する) ・授業に出席する。

回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション、義肢装具学の復習	義肢学の復習を行い、義足のパーツと適応について説明ができる。
2	義肢装具学の復習、切断者について模擬	義足歩行の異常について原因と改善策を説明できる。大腿切断と下腿切断者の模擬ができる。
3	切断者のリハビリテーション①	切断者の評価について講義(30分)、学生同士で切断者の評価が実施できる。(60分)
4	切断者のリハビリテーション②	断端管理法講義(30分)、弾性包帯法・ソフトドレッシングが実施できる、ベッドサイドでの自主トレを指導できる(60分)
5	義足歩行に関する実習①	対象者に歩行練習前の理学療法を実施することができる。(30分)平行棒内での体重負荷、バランス練習を実施できる。(60分)
6	義足歩行に関する実習②	対象者に義足の歩行練習を安全に実施できる。(45分)非切断肢への荷重→義足への荷重と進めることができる。(45分)
7	義足歩行に関する実習③	異常歩行を呈した場合、修正方法を対象者に口頭で説明できる。(30分)歩行練習や筋力トレーニングを実施し修正できる。 (60分)
8	義足歩行に関する実習④	日常生活活動・屋内屋内移動・公共交通機関の利用の際の留意点を説明できる。
9	装具療法実習(症例①)	脳卒中片麻痺患者の短下肢装具について説明できる。歩行練習を指導できる。
10	装具療法実習(症例②)	脳卒中片麻痺患者の長下肢装具について説明できる。歩行練習を指導できる。
11	装具療法実習(症例③)	椎体圧迫骨折後の胸腰椎軟性コルセットについて説明できる。ベッドサイドのリハビリを実施できる。
12	装具療法実習(症例④)	変形性膝関節症の装具療法について説明できる。実際に膝装具や足底装具を使用した模擬症例の運動療法を実施できる。
13	臨床実習と装具療法①	切断者の症例に関する文献を集め、ポートフォリオを作成することができる。
14	臨床実習と装具療法②	装具療法が必要な症例に関する文献を集め、ポートフォリオを作成することができる。
15	義肢装具の支給体系、法制度について	義肢装具の支給体系と法制度、必要な手続きについて説明ができる。

	成績評価方法										
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準						
定期試験	0			100	優(3):80点以上						
小テスト				評価なし	良(2):70点以上						
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上						
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得						
発表•作品				評価なし							
演習		0		評価なし							
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数						
担当教員 藤井 昭宏 実務経験紹介 理学療法士として10年間、急性期病院に勤務。義肢および装具のコーディネーターを担											

科目名	物理療法実習					単位数	1	時間数	30		
授業形態	実習	対象学年	PT	3年	学期	後期	教員実	務経験	有	使用教室	302教室·治療室
授業概要	物理療法は運動療法と並び理学療法の主要な治療法である。この授業では、2年次に学習した物理療法の基礎知識の理解を深めるとともに、代表的な疾患を5例提示し それぞれに対する物理療法プログラムの立案方法について学習する。										
一般目標	・物理療法に関する基礎知識に関する知識を修得する。 ・各種疾患に対する物理療法プログラム立案能力を修得する。										
テキスト 参考書等	シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト(南江堂) 随時資料を配布する。										

- 知識(認知領域) ・物理療法に関する基礎知識が説明できる。 ・物理療法の対象となる病態ごとに物理療法プログラムが立案でき、その物理療法の効果が説明できる。

技術(精神運動領域)・なし

態度(情意領域) ・積極的に授業に参加することができる。

回数	授業内容	授業目標					
1	物理療法の基礎知識①	・温熱・寒冷療法、エネルギー変換療法に関する基礎知識課題に対し、適切な解答を提示できる。					
2	物理療法の基礎知識②	・光線療法、超音波療法に関する基礎知識課題に対し、適切な解答を提示できる。					
3	物理療法の基礎知識③	・電気刺激療法、水治療法に関する基礎知識課題に対し、適切な解答を提示できる。					
4	関節拘縮に対する物理療法①	・足関節捻挫症例における関節可動域制限の原因を推論することができる。					
5	関節拘縮に対する物理療法②	・足関節捻挫症例の関節可動域制限に対する 理学療法プログラムを立案することができる。					
6	痙縮に対する物理療法①	・痙縮および各種物理療法による痙縮軽減の生理メカニズムが説明できる。					
7	痙縮に対する物理療②	・脳卒中片麻痺症例の痙縮に対する理学療法プログラムを立案することができる。					
8	末梢神経損傷に対する物理療法①	・末梢神経損傷の分類と治療原則について説明できる。・末梢神経損傷に対する電気刺激療法の意義について説明できる。					
9	末梢神経損傷に対する物理療法②	・腓骨神経麻痺症例に対し、理学療法プログラムを 立案できる。					
10	軟部組織損傷に対する物理療法①	・軟部組織損傷の修復過程と物理療法の適応について説明できる。 ・腱板断裂の病態と治療原則について説明できる。					
11	軟部組織損傷に対する物理療法②	・腱板損傷症例に対し、理学療法プログラムを立案することができる。					
12	痛みに対する物理療法①	・痛みの概念と定義について説明できる。 ・痛みに対する物理療法の原則について説明できる。					
13	痛みに対する物理療法②	・変形性膝関節症例の痛みに対する理学療法プログラムを立案することができる。					
14	総合演習①	・物理療法に関する基礎知識課題に対し、適切な解答を提示できる。					
15	総合演習②	・提示された症例の中から一例選択し、理学療法プログラムを立案できる。					

	成績評価方法										
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準						
定期試験	0			100	優(3):80点以上						
小テスト				評価なし	良(2):70点以上						
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上						
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得						
発表•作品				評価なし							
演習				評価なし							
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数						
担当教員	山本 悟	実務経験紹介	理学療法士として約30年間医療施設に勤務(現在、非常勤勤務)、物理療法実務に携わる。								

科目名		骨		単位数	2	時間数	30			
授業形態	講義	対象学生	PT 3年	学期	前期	教員実	聚経験	有	使用教室	302教室·治療室
授業概要	2年次に学習 学Bにて症例	2年次に学習した骨関節障害の各疾患に対し、それぞれに対応した理学療法を展開できるようにその内容について学習する。3年次後期に開講する骨関節障害理学療法 学Bにて症例検討が行えるように理学療法の展開の仕方・流れを習得する。また、国家試験を取り入れ、国家試験に対応できるようにしていく。								
一般目標	骨関節障害は	骨関節障害に関する一般的な理学療法が説明でき、部位別に骨関節障害の診断・評価・治療方法を習得する。同範囲の国家試験問題の対応を身につける。								
テキスト 参考書等	シンプル理学療法学シリーズ 骨関節障害理学療法学テキスト(南江堂)									

知識(認知領域) ・骨関節障害に対する一般的な理学療法が説明できる。

技術(精神運動領域)・なし

態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。 ・授業に出席する。

回数	授業内容	授業目標
1	上肢の骨関節障害①	・上肢の骨折(上腕骨近位端骨折、上腕骨骨幹部骨折、上腕骨顆上骨折、コーレス骨折)の特徴を理解し、骨折部の治癒過程に応じた理学療法プログラムについて説明できる。
2	上肢の骨関節障害②	・上肢の筋・軟部組織性障害の特徴を理解し、病態に応じた理学療法プログラムについて説明することができる。
3	体幹の骨関節障害①	・頸椎椎間板ヘルニアと頸部脊柱管狭窄症の障害の特徴を理解し、病態に応じた理学療法プログラムについて説明することができる。
4	体幹の骨関節障害②	・腰椎椎間板ヘルニアと腰部脊柱管狭窄症の障害の特徴を理解し、病態に応じた理学療法プログラムについて説明することができる。
5	体幹の骨関節障害③	・脊柱骨折後の障害の特徴を理解し、運動学的考察に裏付けられた理学療法プログラムについて説明することができる。
6	体幹の骨関節障害④	・授業で取り上げた体幹の骨関節障害の知識について整理し、対応範囲の国家試験問題を解くことができる。
7	関節軟部組織性障害①	・半月板損傷の受傷機転や分類を理解して、運動学的考察に裏付けられた理学療法プログラムについて説明することができる。
8	関節軟部組織性障害②	・膝前十字靭帯・後十字靭帯の受傷機転や障害の特徴を理解し、運動学的考察に裏付けられた理学療法プログラムについて説明することができる。
9	関節軟部組織性障害③	・膝内側側副靭帯、足関節外側側副靭帯損傷の受傷機転や障害の特徴を理解し、運動学的考察に裏付けられた理学療法プログラムについて説明することができる。
10	関節軟部組織性障害④	・各関節の脱臼における障害の特徴を理解し、病態に応じた理学療法プログラムについて説明することができる。
11	関節軟部組織性障害⑤	・授業で取り上げた体幹の関節軟部組織性障害の知識について整理し、対応範囲の国家試験問題を解くことができる。
12	関節リウマチ	・関節リウマチの病態・複合的障害、一般的な理学療法プログラムを理解し説明することができる。
13	その他の運動器疾患①	その他の運動器疾患の理学療法について、疾患の特性や一般的な理学療法プログラムを説明することができる。
14	その他の運動器疾患②	・その他の運動器疾患の理学療法について、疾患の特性や一般的な理学療法プログラムを説明することができる。
15	まとめ	・授業で取り上げた以外の国家試験過去問題から、疾患の基礎知識と理学療法を整理することができる。

成績評価方法										
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準					
定期試験	0			100	優(3):80点以上					
小テスト	0			評価なし	良(2):70点以上					
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上					
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得					
発表・作品				評価なし						
演習				評価なし						
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数					
担当教員	藤井 昭宏	実務経験紹介	建紹介 理学療法士として急性期の医療機関に10年間従事し、各種運動器疾患に携わってきた。							

科目名			単位数	1	時間数	30				
授業形態	実習	対象学生	PT 3年	学期	前期	教員実	務経験	有	使用教室	治療室
授業概要	理学療法を実施する上で、関節可動域制限、軟部組織由来の疼痛は問題点として挙がることが多い。この授業では、関節可動域制限の改善、痛み軽減を目的とした疼痛 抑制法、ストレッチング法の理論と実技について学習する。PNFとは固有受容性神経筋促通法と訳され、主に固有受容器を刺激することにより神経と筋の働きを促通およ び抑制する手技である。この授業ではPNFの概略、根拠となる神経生理学、主な手技について学習する。									
一般目標	ストレッチングの種類と特徴を理解し、治療に必要な解剖学、神経生理学の知識を習得する。疼痛抑制法とIDストレッチングの技術を習得する。 PNFの概略、関連する知識を習得する。PNFの主な手技を習得する。									
	IDストレッチング(三輪書店) PNFマニュアル(南江堂)									

知識(認知領域) ストレッチの種類と特徴を理解し、治療に必要な解剖学、神経生理学について説明できる。 授業で取り上げたPNFの関連知識を説明できる。授業で取り上げたPNFの手技について説明できる。

技術(精神運動領域) 疼痛抑制法、IDストレッチングの基本的手技が実践できる。 授業で取り上げたPNFの主な手技を行える。

態度(情意領域) 積極的に授業に参加することができる。

回数	授業内容	授業目標						
1	IDストレッチング概論①(宮野)	・ストレッチングの種類と特徴を説明できる。・IDストレッチングについて説明できる。						
2	IDストレッチングのための基礎知識① (宮野)	・IDストレッチングのために必要な解剖学、神経生理学について説明できる。						
3	IDストレッチングのための基礎知識② (宮野)	・IDストレッチングの方法、施行時の注意点を説明できる。						
4	IDストレッチングの実際(評価、疼痛抑制) (宮野)	・評価、治療の流れを理解している。疼痛抑制法を実施できる。						
5	IDストレッチングの実際(体幹)(宮野)	・注意点に留意し、筋走行をイメージしながらIDストレッチングを実施できる。						
6	IDストレッチングの実際(上肢・下肢) (宮野)	・筋緊張に応じた方法を選択し、IDストレッチングを実施できる。						
7	PNFの概要・定義・治療管理(道祖)	・PNFの概要、定義について説明できる。 ・PNFの適応、禁忌について説明できる。						
8	促通要素(道祖)	・固有受容器について説明できる。 ・促通の要素について、促通される機能と関連する研究について説明できる。						
9	PNFで用いられる基本手技①(道祖)	・上肢のPNF運動パターンを行える。						
10	PNFで用いられる基本手技②(道祖)	・肩甲骨のPNF運動パターンを行える。 ・下肢のPNF運動パターンを行える。						
11	PNFで用いられる基本手技③(道祖)	・骨盤のPNF運動パターンを行える。						
12	PNFで用いられる基本手技④(道祖)	・体幹のPNF運動パターンを行える。						
13	特殊テクニック、評価とプログラム立案 (道祖)	・特殊テクニックについて目的と方法を説明できる。 ・特殊テクニックを行える。						
14	PNFの臨床応用(道祖)	・PNFの運動パターンを用いて基本動作の促通を行える。 ・PNFの運動パターンを用いて歩行の促通を行える。						
15	疾患別PNF(道祖)	・脳卒中片麻痺に対してPNFを適応できる。 ・膝OAに対してPNFを適応できる。						

成績評価方法									
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準				
定期試験	0			100	優(3):80点以上				
小テスト				評価なし	良(2):70点以上				
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上				
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得				
発表•作品				評価なし					
演習				評価なし					
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数				
担当教員 道祖 悟史、宮野 清孝 実務経験紹介 理学療法士として約25年間、総合病院(急性期)に勤務(句25年間、総合病院(急性期)に勤務(宮野)					

科目名	骨関節障害理学療法学実習B					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	PT 3年	学期	前期	教員実	教員実務経験		使用教室	機能訓練室・治療室
授業概要	骨関節障害は整形外科疾患として理学療法の対象となる機会の多い障害である。本授業では、理学療法の対象となることが多い整形外科疾患における病態、理学療法 評価、運動療法について、講義・グループワーク・実技を通じて学習する。									
一般目標	・各種整形外科疾患の病態・理学療法評価・運動療法の概要について知識を修得する。									
テキスト 参考書等	シンプル理学療法学シリーズ 骨関節障害理学療法学テキスト(南江堂) / その他、必要に応じて資料を配布する									

知識(認知領域) ・授業で取り上げた整形外科的疾患の病態・理学療法評価および運動療法について説明できる。

技術(精神運動領域) ・授業で取り上げた整形外科的疾患の理学療法評価・運動療法を実践(摸倣)できる。

態度(情意領域) ・積極的に授業に参加することができる。

回数	授業内容	授業目標
1	大腿骨近位部骨折について(講義)	・大腿骨頸部骨折・大腿骨転子部骨折の違いについて説明できる。 ・大腿骨頸部骨折例・大腿骨転子部骨折例に対する手術療法について説明できる。 ・大腿骨頸部骨折例・大腿骨転子部骨折例に生じやすい機能障害について説明できる。
2	大腿骨近位部骨折の評価と治療について (講義・グループワーク)	・大腿骨頸部骨折例・大腿骨転子部骨折例の理学療法評価について説明できる。 ・大腿骨頸部骨折例・大腿骨転子部骨折例における検査・測定結果のアセスメントの流れを説明できる。
3	大腿骨近位部骨折の評価と治療について (実技・小テスト)	・大腿骨頸部骨折例・大腿骨転子部骨折例に対する理学療法評価および運動療法を実践(摸倣)できる。
4	変形性股関節症について(講義)	・変形性股関節症の病態を股関節における臼蓋被覆の観点から説明できる。 ・変形性股関節症例に生じやすい機能障害について説明できる。 ・変形性股関節症例に生じやすい歩行障害(Trendelenburg sign・Duchenne sign)について説明できる。
5	変形性股関節症の評価と治療について(講義・グループワーク)	・変形性股関節症例の理学療法評価について説明できる。 ・変形性股関節症例における検査・測定結果のアセスメントの流れを説明できる。
6	変形性股関節症の評価と治療について(実技・小テスト)	・変形性股関節症例に対する理学療法評価および運動療法を実践(摸倣)できる。
7	人工股関節全置換術について(講義)	・人工股関節全置換術のアプローチと脱臼について説明できる。 ・人工股関節全置換術後に生じやすい機能障害について説明できる。
8	人工股関節全置換術の評価と治療について(講義・グループワーク)	・人工股関節全置換術後の理学療法評価について説明できる。 ・人工股関節全置換術後における検査・測定結果のアセスメントの流れを説明できる。
9	人工股関節全置換術の評価と治療について(実技・小テスト)	・人工股関節全置換術に対する理学療法評価および運動療法を実践(摸倣)できる。 ・人工股関節全置換術後の脱臼肢位に留意した日常生活動作指導を実践(摸倣)できる。
10	変形性膝関節症について(講義)	・変形性膝関節症の病態について説明できる。 ・変形性膝関節症に生じやすい機能障害について説明できる。 ・変形性膝関節症に生じやすい歩行障害(lateral thrust・stiff knee gait・Duchenne sign)について説明できる。
11	変形性膝関節症の評価と治療について(講義・グループワーク)	・変形性膝関節症の理学療法評価について説明できる。 ・変形性膝関節症における検査・測定結果のアセスメントの流れを説明できる。
12	変形性膝関節症の評価と治療について(実技・小テスト)	・変形性膝関節症に対する理学療法評価および運動療法を実践(摸倣)できる。
13	人工膝関節全置換術について(講義)	・人工膝関節全置換術で用いられるインプラント(CR・PS)、関節侵入法の特徴について説明できる。 ・人工膝関節全置換術後に生じやすい機能障害について説明できる。
14	人工膝関節全置換術の評価と治療について(講義・グループワーク)	・人工膝関節全置換術後の理学療法評価について説明できる。 ・人工膝関節全置換術後における検査・測定結果のアセスメントの流れを説明できる。
15	人工膝関節全置換術の評価と治療について(実技・小テスト)	・人工膝関節全置換術に対する理学療法評価および運動療法を実践(摸倣)できる。

	成績評価方法										
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準						
定期試験	0			100	優(3):80点以上						
小テスト				評価なし	良(2):70点以上						
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上						
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得						
発表•作品				評価なし							
演習		0		評価なし							
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数						
担当教員	川端 悠士	実務経験紹介	理学療法士として16年間、整形外科関連医療施設に勤務								

科目名	神経障害理学療法学A					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT 3年	学期	前期	教員実	教員実務経験		使用教室	302教室·治療室
授業概要	各種神経障害	各種神経障害に関する一般的な評価・治療法について知識を整理し、症例検討を通して疾患への理解と理学療法の関わり方を深める。								
一般目標	• 部位別、疾	・各種神経障害に関する一般的な治療法を説明できる。 ・部位別、疾患別に診断・評価・治療を説明できる。 ・症例検討では、適切な検査・測定を選択し、模倣・実施ができる。								
テキスト 参考書等	「マッスルエナジーテクニック」一全身の筋肉に適応できるホールドリラックスアプローチーガイアックス社 (弓岡分) 脳卒中理学療法の理論と技術 メジカルビュー社 (宍戸分) その他、適官資料を配布にます。(藤井分)									

- 知識(認知領域) ・授業で取り上げた疾患および治療法について説明できる。 ・脳卒中の基礎を理解できる。

技術(精神運動領域) ・授業で取り上げた、動作分析、運動療法について説明できる。

態度(情意領域) ・積極的に授業に参加することができる。

回数	授業内容	授業目標
1	Bobathアプローチ①(弓岡)	Bobathアプローチについて説明できる。
2	Bobathアプローチ② (弓岡)	動作分析と触診に基づいた評価と治療手技が説明できる。
3	Bobathアプローチ③ (弓岡)	動作分析と触診に基づいた評価と治療手技が説明できる。
4	Bobathアプローチ④ (弓岡)	動作分析と触診に基づいた評価と治療手技が説明できる。
5	Bobathアプローチ⑤ (弓岡)	動作分析と触診に基づいた評価と治療手技が説明できる。
6	Bobathアプローチ⑥ (弓岡)	動作分析と触診に基づいた評価と治療手技が説明できる。
7	脳卒中の原因と病態 (宍戸)	・脳卒中の基礎知識を理解する ・脳画像の基礎知識を理解する
8	脳卒中の外科的・内科的治療(宍戸)	・脳卒中者に対する内科的、外科的治療を把握する
9	脳卒中の評価 (宍戸)	・脳卒中者への定量的評価を理解する
10	脳卒中の運動療法(急性期) (宍戸)	・脳卒中急性期患者の運動療法時の注意点や方法を理解する
11	特殊神経疾患①(藤井)	特殊疾患について説明することができる。
12	特殊神経疾患②(藤井)	特殊疾患に行う理学療法について、意義・目的・方法を説明することができる。
13	パーキンソン病①(藤井)	パーキンソン病について説明することができる。
14	パーキンソン病②(藤井)	パーキンソン病に行う理学療法について、意義・目的・方法を説明することができる。
15	症例検討 (藤井)	評価や治療、ゴール設定について、情報を整理・検討を行い、プログラムを立案することができる。

	成績評価方法										
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準						
定期試験	0	0		100	優(3):80点以上						
小テスト				評価なし	良(2):70点以上						
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上						
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得						
発表•作品				評価なし							
演習				評価なし							
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数						
担当教員	号岡 光徳、宍戸 健一郎、他	実務経験紹介	理学療法士として約20年間、神経系関連医療施設に勤務(弓岡)								

科目名		神		単位数	2	時間数	30			
授業形態	講義	対象学生	PT 3年	学期	後期	教員実	聚経験	有	使用教室	302教室·治療室·機能訓練室
授業概要	神経障害理学療法の中でも、主に脊髄損傷患者への理学療法、ロボットスーツを使用した治療、一般的な脳卒中患者の症例検討を学ぶ。実際に脊髄損傷患者を招き、より実際的な理学療法を学ぶ。また山口ロボサポートと連携し、ロボットスーツの実際について学ぶ。									
一般目標	各種神経障ロボットリハと	・各種神経障害に関する一般的な治療法を説明できる。・部位別、疾患別に診断・評価・治療を選択できる。 ・ロボットリハビリテーションの概要を説明できる。・症例検討において、適切な検査・測定を選択し、問題点抽出、プログラム立案できる。								
テキスト 参考書等	講師毎に適宜配布する。									

知識(認知領域) ・授業で取り上げた神経障害理学療法について説明できる。

- 技術(精神運動領域)
 ・授業で取り上げた神経障害理学療法について実施できる。
 ・症例レボートが作成できる。

態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と計議する) ・授業に出席する。

回数	授業内容	授業目標
1	脊髄損傷の診断と治療(佐々木)	脊髄損傷の基礎を説明できる。 脊髄損傷の易学について説明できる。
2	脊髄損傷の診断と治療(佐々木)	頸髄損傷について病態を説明できる。 頸髄損傷の随伴症状、合併症を説明できる。
3	脊髄損傷のトピックス(佐々木)	脊髄損傷の装具・ロボット歩行について説明できる。
4	脊髄損傷の理学療法評価(佐々木)	胸・腰髄損傷について病態を説明できる。 胸・腰髄損傷について随伴症状、合併症を説明できる。
5	脊髄損傷の理学療法評価(佐々木)	車いすの名称を説明できる。 車いすの処方について説明ができる。
6	急性期の理学療法(佐々木)	脊髄損傷者の急性期の理学療法について説明できる。 随伴症状、合併症への対処法が説明できる。
7	回復期の理学療法(佐々木)	脊髄損傷者の基本動作について、分析でき、説明できる。 脊髄損傷者の動作の真似ができる。
8	ロボットリハビリテーション(宍戸)	近年なぜロボットリハビリが注目されているのかを理解することができる。
9	ロボットリハビリテーション(宍戸)	リハビリに使用されているロボットの種類、効果を説明することができる。
10	ロボットリハビリテーション(宍戸)	実際にロボットを使用している場面を見学し、今後の臨床実習などの場面で経験を活かすことができる。
11	症例検討・脳卒中(島本)	提示症例の症例レポートが作成できる。
12	症例検討・脳卒中(島本)	提示症例の症例レポートが作成できる。
13	症例検討・脳卒中(島本)	提示症例の症例レポートが作成できる。
14	リスクマネジメント1(山本)	リハビリテーションにおけるリスクマネジメントについて説明できる。
15	リスクマネジメント2(山本)	医療事故防止のための 行動目標を設定できる。

	成績評価方法										
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準						
定期試験	0			100	優(3):80点以上						
小テスト				評価なし	良(2):70点以上						
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上						
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得						
発表•作品				評価なし							
演習		0		評価なし							
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数						
担当教員 宍戸 健一郎、佐々木 貴之、他 実務経験紹介 理学療法士として17年間、脊髄損傷の専門病院に勤務(佐々木)											

科目名		神経		単位数	1	時間数	30			
授業形態	実習	対象学生	PT 3年	学期	前期	教員実	ミ務経験	有	使用教室	治療室·機能訓練室
授業概要	神経系疾患に関する理学療法を、実習A・実習Bと分けて行う。脳卒中、小児、脊髄損傷など、これまで学習してきた神経理学療法について、より臨床に向けた知識や技術の整理を行う。 講義担当は臨床の第一線でご活躍されている理学療法士の先生方であり、最新の知見や臨床における思考過程を学ぶことができる。									
一般目標	・脳卒中に関	脳卒中に関する一般的な治療法を説明できる。								
テキスト 参考書等										

知識(認知領域) ・脳卒中者の診断・評価・運動療法について説明できる。

技術(精神運動領域) ・装具、電気治療機器の必要性、操作方法を獲得する。

態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。

回数	授業内容	授業目標
1	脳卒中の運動療法(回復期) (宍戸)	・脳卒中者の寝返り・起き上がりについて理解する
2	脳卒中の運動療法(回復期) (宍戸)	・脳卒中者の歩行について理解する
3	脳卒中の運動療法(生活期) (宍戸)	・脳卒中者の生活期リハビリについて理解する
4	脳卒中の装具療法 (宍戸)	長下肢装具、短下肢装具の必要性を理解する
5	脳卒中の物理療法 (宍戸)	・電気治療機器の必要性を理解する
6	脳卒中の物理療法 (宍戸)	・電気治療機器の必要性を理解する
7	高次脳機能障害(宍戸)	・高次脳機能障害について理解する
8	OT・STによるリハビリテーション (宍戸)	・ADL障害、嚥下障害、失語症について理解する
9	その他のリハビリテーション(宍戸)	・様々なリハビリテーションを把握する
10	脳卒中者へのリハビリテーション(宍戸)	・まとめとしてトータル的なリハビリを理解する
11	脳卒中 急性期のリスク管理①(小田)	・リスク管理の概要について説明できる
12	脳卒中 急性期のリスク管理②(小田)	・病態別のリスクを説明できる ・リスクを予測することができる
13	脳卒中 急性期の評価 (小田)	・一般的な評価項目を説明できる ・脳画像から病態や症状が予測できる
14	脳卒中 急性期の理学療法①(小田)	・早期離床の進め方について、リスク管理も含め説明できる ・急性期理学療法のエビデンスについて説明できる
15	脳卒中 急性期の理学療法②(小田)	・pusher症候群、運動失調などに対する理学療法について説明できる ・長下肢装具を使用した歩行介助方法について説明できる

成績評価方法									
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準				
定期試験	0			100	優(3):80点以上				
小テスト				評価なし	良(2):70点以上				
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上				
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得				
発表•作品				評価なし					
演習		0		評価なし					
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数				
担当教員 宍戸 健一郎、小田 勇男 実務経験紹介 理学療法士として13年間、急性期病院に勤務し、主に脳卒				±期病院に勤務し、主に脳卒中と整形を担当する(小田)					

科目名			単位数	1	時間数	30				
授業形態	実習	対象学生	PT 3年	学期	後期	教員実	務経験	有	使用教室	治療室·機能訓練室
授業概要	の整理を行う。	神経系疾患に関する理学療法を、実習A・実習Bと分けて行う。脳卒中、小児、脊髄損傷など、これまで学習してきた神経理学療法について、より臨床に向けた知識や技術の整理を行う。 の整理を行う。 講義担当は臨床の第一線でご活躍されている理学療法士の先生方であり、最新の知見や臨床における思考過程を学ぶ。								
一般目標		・小児疾患・障害に対する運動療法を選択し、その意義を説明できる。 ・脊髄損傷患者様に適切な評価を選択し、その模倣と実施ができる。								
テキスト 参考書等	その他の講師分は適宜、資料を配布する。									

知識(認知領域) 小児、脊髄損傷に関する理学療法の意義、目的、方法について説明できる。

技術(精神運動領域) 脊髄損傷患者様に適切な評価を選択し、その模倣と実施ができる。

態度(情意領域) 積極的に授業に参加することができる。

回数	授業内容	授業目標
1	小児領域における理学療法(一色)	ポジション(仰臥位)の意味を理解し、起き上がり等のアプローチを説明できる。
2	小児領域における理学療法(一色)	ポジション(腹臥位)の意味を理解し、寝返り等のアプローチを説明できる。
3	小児領域における理学療法(一色)	ポジション(座位)の意味を理解し、体幹の抗重力伸展のアプローチを説明できる。
4	小児領域における理学療法(一色)	ポジション(立位)の意味を理解し、基底面と重心の関係を説明できる。
5	小児領域における理学療法(一色)	歩行のアプローチをや姿勢反射や反応を説明できる。
6	小児領域における理学療法(一色)	これまで学習した知識・技術を整理し、説明することができる。
7	脊髄損傷の評価前注意事項(古賀)	脊髄損傷者の評価項目を説明できる。 脊髄損傷者の評価項目の選定ができる。
8	脊髄損傷の評価前注意事項(古賀)	脊髄損傷者に対する評価方法を説明できる。
9	脊髄損傷の評価前注意事項(古賀)	頸髄損傷者の病態を把握し、評価時の注意点を説明できる。
10	脊髄損傷の評価前注意事項(古賀)	胸・腰髄損傷者の評価時の注意点を説明できる。
11	脊髄損傷患者様の評価(古賀)	実際の脊髄損傷患者で評価のための説明ができる。
12	脊髄損傷患者様の評価(古賀)	実際の脊髄損傷患者で評価ができる。 評価時の代償動作について説明できる。
13	脊髄損傷患者様の評価(古賀)	実際の脊髄損傷患者の動作を観察し、分析することができる。
14	脊髄損傷患者様の評価(古賀)	実際の脊髄損傷患者で評価を行い、統合と解釈ができる。
15	神経障害理学療法学のまとめ(藤井)	これまで学習した知識・技術を整理し、説明することができる。

成績評価方法										
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準					
定期試験	0			100	優(3):80点以上					
小テスト				評価なし	良(2):70点以上					
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上					
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得					
発表•作品				評価なし						
演習		0		評価なし						
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数					
担当教員	一色 一美、古賀 隆一郎、他	実務経験紹介		約30年間/	小児を中心に理学療法を行う(一色)					

科目名		内		単位数	2	時間数	30			
授業形態	講義	対象学生	PT 3年	学期	前期	教員実	務経験	有	使用教室	302教室·治療室
授業概要	代表的な循環器疾患の病態, 症状, 運動機能評価, 理学療法プログラムについて学習する。不整脈の種類や心電図を用いた不整脈の判読手順を解説し, リスク管理について学習する。また, 理学療法をすすめる際に必要となる心臓リハビリテーションについて解説する。									
一般目標	1. 循環器疾患の病態について習得する。 ② 2. 循環器疾患患者に対する評価や不整脈,リスク管理について習得する。 ③ .心臓リハビリテーション(特に運動療法)について習得する。									
テキスト 参考書等	呼吸・心臓リハビリテーション (羊土社)									

知識(認知領域) 授業で取り上げた循環器疾患および心臓リハビリテーション(特に運動療法)について説明できる

技術(精神運動領域) バイタルチェック・視診・問診・触診・聴診が目的を持って行うことができる レジスタンストレーニング・有酸素運動などの負荷が適切に行うことができる

態度(情意領域) 理学療法士として患者さんと真正面から向き合い、一生懸命理学療法を実践していくという、意思表示ができる

回数	授業内容	授業目標
1	循環器疾患総論	・心臓リハビリテーションの定義・目的を説明できる・心臓リハビリテーションの構成要素を説明できる・心臓リハビリテーションの効果を説明できる
2	循環器系の解剖と機能	循環器(特に心臓)の構造と機能について説明できる
3	循環器系の症候と検査	循環器系の症候(自覚症状や身体所見など)、検査(心電図など)を説明できる
4	心臓リハビリテーション総論	・心臓リハビリテーションの有効性を説明できる・心臓リハビリテーションの適応と禁忌が説明できる・心臓リハビリテーションの運動療法の強度・頻度・種類について説明できる
5	虚血性心疾患のリハビリテーション	虚血性心疾患の病態、理学療法について説明できる
6	心不全のリハビリテーション	心不全の病態、理学療法について説明できる
7	開心術後のリハビリテーション	・開心術の種類について説明できる ・開心術後の理学療法について説明できる
8	患者教育について(食事指導など)	食事指導を中心とした生活指導について理解し説明できる
9	実技(バイタルチェック)	血圧、脈拍、脈圧、SpO2を測定することの意味を理解し、実践できる
10	実技(問診、視診)	目的を持った問診・視診が実践できる
11	実技(触診、聴診)	末梢循環、心尖拍動の触診、心音の聴診ができる
12	実技(レジスタンストレーニング)	適切な負荷・リスク管理を考えたレジスタンストレーニングが実践できる
13	実技(有酸素運動、運動負荷試験)	ボルグスケールやカルボーネンの式を使用し、エルゴメーターやトレッドミルでの 運動負荷が実践できる
14	グループワーク(ホームエクササイズの作成、患者 指導など)	症例に合わせたホームエクササイズの作成・患者指導ができる
15	試験対策	循環器の理学療法について整理することができる

	成績評価方法										
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準						
定期試験	0			100	優(3):80点以上						
小テスト				評価なし	良(2):70点以上						
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上						
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得						
発表•作品				評価なし							
演習		0		評価なし							
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数						
担当教員	金井 和明	実務経験紹介	理学療法士として約12年間、急性期病院に勤務(心臓リハビリテーション指導士を取得して約7年)								

科目名		P	內部障害理学療法		単位数	2	時間数	30		
授業形態	講義	対象学生	PT 3年	学期	後期	教員実	務経験	有	使用教室	302教室·治療室
授業概要	身体障害者数の1/4を内部障害者が占めており、現在の理学療法において内部障害は主要な分野の1つである。 この授業では理学療法士が関与する呼吸器障害の概要をとらえ、その評価方法と治療技術について学習する。									
一般目標	・呼吸器の構造、評価方法に関する知識および技術を修得する。・呼吸リハビリテーションのプログラム立案に関する知識を修得する。									
テキスト 参考書等	ビジュアル実践リハ 呼吸・心臓リハビリテーション 第2版 (羊土社)									

知識(認知領域) ・呼吸リハビリテーションについて説明することができる。

技術(精神運動領域)
・授業で取り上げた呼吸リハビリテーションを実施することができる。

態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。 ・授業に出席する。

授業(に積	極	的	に

回数	授業内容	授業目標						
1	呼吸リハビリテーションの基礎知識①	呼吸器の構造・呼吸のメカニズムについて説明できる。						
2	呼吸リハビリテーションの評価①	視診・触診・聴診・打診について説明できる。						
3	呼吸リハビリテーションの基礎知識②	呼吸不全の分類と血液ガスについて説明できる。						
4	呼吸リハビリテーションの評価②	パルスオキシメータ・スパイロメータを使った評価について説明できる。 視診・触診・聴診・打診が実施できる。						
5	包括的呼吸リハビリテーション	包括的呼吸リハビリテーションの目的・効果・注意事項が説明できる。						
6	呼吸リハビリテーションの対象疾患	COPD・間質性肺炎・肺炎・気管支喘息について説明できる。						
7	呼吸リハビリテーションの評価③	臨床検査所見・異常な呼吸音・肺音について説明できる。						
8	呼吸リハビリテーションの評価④	呼吸リハビリテーションの理学療法評価について説明できる。 呼吸リハビリテーションの理学療法評価が実施できる。						
9	人工呼吸器管理での 呼吸リハビリテーション	人工呼吸器管理での呼吸リハビリテーションが説明できる。						
10	排痰法(体位排痰法・ハフィング) ACBT	排痰法(体位排痰法・ハフィング)・ACBTについて説明できる。 排痰法(体位排痰法・ハフィング)・ACBTが実施できる。						
11	COPDの呼吸リハビリテーション	COPDの呼吸リハビリテーションについて説明できる。 COPDの呼吸リハビリテーションが実施できる。						
12	ロすぼめ呼吸・横隔膜呼吸 呼吸体操・ADLトレーニング	ロすぼめ呼吸・横隔膜呼吸・呼吸体操・ADLトレーニングについて説明できる。 ロすぼめ呼吸・横隔膜呼吸・呼吸体操・ADLトレーニングが実施できる。						
13	各疾患の呼吸リハビリテーション 気管吸引・在宅酸素療法	各疾患の呼吸リハビリテーション・気管吸引・在宅酸素療法について説明できる。 各疾患の呼吸リハビリテーションが実施できる。						
14	徒手的呼吸介助手技 胸郭可動域練習	徒手的呼吸介助手技・胸郭可動域練習について説明できる。 徒手的呼吸介助手技・胸郭可動域練習が実施できる。						
15	総合演習	呼吸器の構造、評価方法について説明できる。 呼吸リハビリテーションのプログラムを立案できる。						

	成績評価方法										
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準						
定期試験	0			100	優(3):80点以上						
小テスト				評価なし	良(2):70点以上						
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上						
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得						
発表•作品				評価なし							
演習		0		評価なし							
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数						
担当教員	伊藤 惇	実務経験紹介	理学療法士として約10年間、総合病院に勤務。								

科目名		内部	『障害理学療法学	実習A		単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	PT 3年	学期	前期	教員実	務経験	有	使用教室	治療室·機能訓練室
授業概要	内部障害に対する理学療法の実際について実技を中心に学ぶ。前半では主に、運動による身体の生理的な変化について実習し、呼気ガス装置を用いた運動負荷試験や理学療法の運動処方などについて学ぶ。									
一般目標	・代表的な内部疾患の病態について説明できる。 ・代表的な内部疾患に対する評価及び治療について説明できる。 ・代表的な内部障害に対する治療プログラムが立案できる。									
	理学療法士のための運動処方マニュアル(文光堂) その他、必要に応じて資料を配布する。									

知識(認知領域) ・授業で取り上げた内部障害理学療法について説明できる。

技術(精神運動領域)
・授業で取り上げた内部障害理学療法について実施できる。

態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)

* 17X	未	٧-	付貝	悭	ロソ	~
Lexi	ALL/L	1-	111	nh:	1	7

回数	授業内容	授業目標
1	運動時の生体反応①(曽根)	運動時のエネルギー代謝について説明することができる。 運動時の呼吸応答ならびに酸素動態について説明することができる。
2	運動時の生体反応②(曽根)	運動時の循環応答について説明することができる。
3	運動時の生体反応③(曽根)	換気閾値、乳酸閾値について説明することができる。 運動時の内分泌応答について説明することができる。
4	運動負荷試験実習(曽根)	実習を通して、呼気ガス分析を含めた運動負荷試験実施のための具体的手順・方法や留意点について理解し、説明することができる。
5	運動処方作成のための基礎理論①(丹)	運動処方の具体的条件(運動種目、強度、時間および頻度)について説明することができる。 運動強度を表す具体的指標(物理的、生理的ならびに主観的な指標)について説明することができる。
6	運動処方作成のための基礎理論②(丹)	内科的疾患に対する運動療法のガイドラインについて説明することができる。 減量プログラム作成につながるエネルギー計算 (運動による消費エネルギーの計算を含む)を行うことができる。
7	運動負荷試験の結果に基づいた運動処方 (運動プログラム)作成の実際①(丹)	マイクロソフトエクセルを用いて運動負荷試験の結果(物理的仕事率、酸素摂取量、心拍数、血圧、主観的運動強度)を基にした運動処方(運動プログラム)を作成することができる。
8	運動負荷試験の結果に基づいた運動処方 (運動プログラム)作成の実際②(丹)	マイクロソフトエクセルを用いて運動負荷試験の結果(物理的仕事率、心拍数、血圧、主観的運動強度)を基にした運動処方(運動プログラム)を作成することができる。
9	エネルギー代謝に関連する国試対策 (川﨑)	エネルギー代謝に関連する国試の過去問を解答することができる。また、問題の解説を行うことができる。
10	運動処方に関連する国試対策(川崎)	運動処方に関連する国試の過去間を解答することができる。また、問題の解説を行うことができる。
11	心肺運動負荷試験に関連する国試対策 (川﨑)	心肺運動負荷試験に関連する国試の過去問を解答することができる。また、問題の解説を行うことができる。
12	がんの治療について(島本)	がんの疫学・病理学と一般的ながんの治療について説明することができる。
13	周術期・回復期・終末期のがんのリハビリ テーション(島本)	周術期・回復期・終末期のがんのリハビリテーションについて説明することができる。
14	症例検討(がんリハ)(島本)	がん患者の症例について問題点の抽出とプログラムの立案ができる。
15	国家試験対策(島本)	国家試験問題を理解し解答することができる。

	成績評価方法										
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準						
定期試験	0			100	優(3):80点以上						
小テスト				評価なし	良(2):70点以上						
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上						
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得						
発表•作品				評価なし							
演習		0		評価なし							
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数						
担当教員	丹 信介、曽根 涼、他	実務経験紹介	大学教員として20年間、健康運動処方論の講義と演習(丹)、運動生理学の講義と実習(曽根)をそれぞれ担当。								

科目名		内部	常障害理学療法学		単位数	1	時間数	30		
授業形態	実習	対象学生	PT 3年	学期	後期	教員実	賽務経験	有	使用教室	302教室・治療室・機能訓練室
授業概要	内部障害に対する理学療法の実際について実技を中心に学ぶ。ここでは主に糖尿病と腎機能障害の理学療法について学ぶ。 医療従事者としての感染予防リスクマネジメント、ストレスマネジメントができる。理学療法士として内部障害患者に対して、喀痰・吸引ができる。 健康増進について理解し、その中での理学療法士の役割が説明できる。チャレンジデーを通して、健康増進の企画、運営ができる。									
一般目標	・代表的な内部疾患の病態、評価及び治療について説明できる。 ・代表的な内部障害に対する治療プログラム(健康増進プログラム)が立案できる。 ・医療従事者として、感染予防、ストレスマネジメント、吸引ができる。									
テキスト 参考書等	その他、必要に応じて資料を配布する。									

知識(認知領域) ・授業で取り上げた内部障害理学療法について説明できる。

- 技術(精神運動領域) ・授業で取り上げた内部障害理学療法について実施できる。 ・吸引ができる。 ・健康増進の企画、運営ができる。

態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する) ・授業に出席する。

回数	授業内容	授業目標							
1	肥満・メタボリックシンドロームに関わる評価・測定(溝口)	肥満・メタボリックシンドロームに関わる評価が説明できる。							
2	糖尿病の運動療法・運動の種類と強度 (溝口)	糖尿病の運動療法の種類と強度について説明できる。							
3	糖尿病の運動療法・運動指導上の注意点(溝口)	重動指導上の注意点、リスク管理について説明できる。							
4	糖尿病の運動療法・患者教育と療養指導 (溝口)	患者教育と療養指導について説明できる。							
5	腎障害の運動療法・運動の種類と強度 (福田)	腎障害の基礎知識を学び、運動療法や運動の種類・強度の設定ができる。							
	腎障害の運動療法・注意点・患者教育と指 導(福田)	腎障害患者の精神面への理解・配慮ができ、患者指導や運動への注意点の説明ができる。							
7	病棟におけるリスクマネジメント(山下)	病棟におけるリスクマネジメントについてを理解することができる。							
8	レジリエンス・ストレスコーピング (三宅)	臨床実習に赴くための心構えができる。							
9	救命救急法(加藤) (日本赤十字基礎講習)	救命救急法について理解し実施することができる。							
10	救命救急法(加藤) (日本赤十字基礎講習)	救命救急法について理解し実施することができる。							
11	感染予防(山下)	感染予防について理解し実施することができる。							
12	喀痰吸引法(濱本·看護学科教員)	喀痰吸引法について理解し実施することができる。							
13	喀痰吸引法(濱本·看護学科教員)	喀痰吸引法について理解し実施することができる。							
14	健康増進(石丸)	チャレンジデーの計画、実施							
15	健康増進(石丸)	チャレンジデーの計画、実施							

	成績評価方法										
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準						
定期試験	0			100	優(3):80点以上						
小テスト				評価なし	良(2):70点以上						
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上						
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得						
発表•作品				評価なし							
演習		0		評価なし							
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数						
担当教員 溝口 桂、福田 圭祐、他 実務経験紹介 7年間の透析医療現場を経て、通所介護施設に勤務(福田)											

科目名			スポーツ理学療法	学		単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT 3年	学期	前期	教員実	務経験	有	使用教室	302教室
授業概要	スポーツ障害から運動機能を改善させ、競技レベルを向上させることができるスキルを身につけることができる内容を学習する。この授業では特に障がい者スポーツに着目 し、競技動作と障害発生の原因となる動作を分析するとともに、障がい者スポーツ競技者に対する指導法について学習を深める。									
一般目標	障がい者スス	ドーツ競技に	その病態に関する気 こ起こりうるスポーツ ほするにあたり必要	障害に関	する知識を修得す	~る。				
テキスト 参考書等	なし									

知識(認知領域) ・障がい者スポーツ対象者の病態およびスポーツ障害について説明できる。

技術(精神運動領域)
・障がい者スポーツ競技について、対象者に競技指導および模倣ができる。

態度(情意領 ・授業に積 ・授業に出	「極的に参加することができる。 (周囲と協力す	rる、周囲に配慮する、周囲と計議する) -
回数	授業内容	授業目標
1	障がい者スポーツの意義と理念	障害者にとってのスポーツの意義と理念を理解することができる。
2	全国障害者スポーツ大会の概要	全国障がい者スポーツ大会の基本理念などを通して地域のスポーツ振興を進める役割について理解することができる。
3	障がい者スポーツ推進の取り組み	地域の障がい者スポーツ振興の現状について理解することができる。
4	障がい者スポーツに関する諸施策	障がい者福祉施策および障がい者スポーツに関する施策について学ぶ
5	障がいのある人との交流(きらりんビック)	障がい者との交流ができる。
6	障がいのある人との交流(きらりんビック)	障がい者との交流ができる。
7	障がいのある人との交流(きらりんビック)	障がい者との交流ができる。
8	障がいのある人との交流(きらりんビック)	障がい者との交流ができる。
9	各障がいの理解(身体障がい)	スポーツをする上での身体障害(肢体不自由、視覚・聴覚・内部障害)について説明できる。
10	各障がいの理解(身体障がい)	スポーツをする上での身体障害(肢体不自由、視覚・聴覚・内部障害)について説明できる。
11	各障がいの理解(知的障がい)	スポーツをする上での知的障害について説明できる。
12	各障がいの理解(精神障がい)	スポーツをする上での精神障害について説明できる。
13	スポーツのインテグリティと指導者に 求められる資質	スポーツにおけるインテグリティを理解し、プレイヤーズファーストの視点やプレイヤーと共に学び続ける姿勢について理解することができる。
14	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫	対象者が障がい者スポーツを実施するために必要な説明と支援ができる。
15	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫	対象者が障がい者スポーツを実施するために必要な説明と支援ができる。

	成績評価方法									
知識(認知領域) 技術(精神運動領域) 態度(情意領域) 評価割合 成績評価基準										
定期試験	0			100	優(3):80点以上					
小テスト	0			評価なし	良(2):70点以上					
宿題授業外レポート	0			評価なし	可(1):60点以上					
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得					
発表•作品		0		評価なし						
演習		0		評価なし						
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数					
担当教員 加藤 善範 実務経験紹介 理学療法業務の中で、障がい者スポーツに携わる経験あり。										

科目名		スポ	ーツ理学療法学	実習		単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習 対象学生 PT 3年 学期 後期				後期	教員実	務経験	有	使用教室	治療室
授業概要	スポーツ障害から運動機能の改善を目指し、競技レベルの向上、スキルを身につけることができる内容を学習する。この授業では競技動作と障害発生の原因となる動作を分析するとともに、障害特性に応じた指導法について学習を深める。									は競技動作と障害発生の原因となる動作を
一般目標	・各種競技に	起こりうるスポ・	する知識を習得す ーツ障害の評価だ り必要な知識お	方法、治療	を対法に関する知識 を習得する。	識を習得する	0			
テキスト 参考書等	アスレティック スポーツ理学	リハビリテーシ 療法学 改訂	/ョンガイド(文光生 第2版(メジカルヒ	堂) ごュー)						

知識(認知領域)
・スポーツ障害(疾患別および競技別)の特性について理解し、説明できる。
・スポーツ障害の予防、救急処置、およびコンディショニング(テーピングを含む)について理解し、実施できる。

技術(精神運動領域) なし

態度(情意領域) 積極的に授業に参加することができる。

回数	授業内容	授業目標						
1	スポーツ障害と理学療法	・スポーツ医療における理学療法士の役割を説明できる・アスレティックトレーナーの役割を説明できる						
2	疾患別スポーツ障害①	・スポーツ外傷、障害の違いについて説明できる ・上肢のスポーツ障害について説明できる						
3	疾患別スポーツ障害②	・下肢のスポーツ障害について説明できる						
4	競技別スポーツ障害①	・競技種目特性(動作、体力)を理解できる ・競技別スポーツ(球技)特性を理解できる						
5	競技別スポーツ障害②	・競技別スポーツ(球技以外)特性を理解できる						
6	スポーツ動作分析①	・スポーツの基本的な動作を理解し、問題点や改善点を把握し、説明できるようになる						
7	スポーツ動作分析②	・スポーツの基本的な動作を理解し、問題点や改善点を把握し、説明できるようになる						
8	コンディショニングと外傷予防	・様々なコンディショニングの知識を身につけ、実践できる						
9	救急処置	・救急処置の基本的な知識を身につけ、実践できる						
10	テーピング実技 総論・足関節①	・テービングの基本的な知識を理解できる ・足関節のテービングが実践できる						
11	テービング実技 足関節②・足部	・足関節のテーピングが実践できる ・足部のテーピングが実践できる						
12	テーピング実技 膝関節①	・膝関節のテービングが実践できる						
13	テーピング実技 膝関節②	・膝関節のテービングが実践できる						
14	テービング実技 肩関節	・肩関節のテービングが実践できる						
15	テーピング実技 肘関節	・肘関節のテービングが実践できる						

	成績評価方法									
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準					
定期試験	0			100	優(3):80点以上					
小テスト				評価なし	良(2):70点以上					
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上					
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得					
発表•作品				評価なし						
演習				評価なし						
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数					
担当教員	上條 寛司	実務経験紹介	整形外科病院やスポーツ現場でスポーツ選手に対して、治療や帯同経験がある							

科目名			地域理学療法学	4		単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義 対象学生 PT 3年 学期 前期				前期	教員実	孫経験	有	使用教室	302教室
授業概要	これまでに学習した日常生活活動A・B、日常生活活動実習A・Bや地域リハビリテーション学を基盤に、地域における理学療法士の活動内容を紹介し、地域課題と解決方法について学んでいく。									
一般目標	地域理学療法の活動内容を知り、介護保険領域や介護予防分野での理学療法の意義、目的、内容に関する知識を修得する。									
テキスト 参考書等	地域リハビリテーション学(羊土社) その他、必要に応じ資料を配布する。									

知識 (認知領域) 地域理学療法における理学療法士の領域、関連職種、法・制度、サービスについて説明できる。

技術(精神運動領域) ICFを用いて問題点を整理し、必要なサービスや理学療法プログラムの立案が行える。

態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)

回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション 総論①地域リハビリテーション(川崎)	地域リハビリテーションの範囲・対象について説明することができる。
2	総論①地域福祉(川崎)	地域福祉の定義、地域福祉計画について説明することができる。
3	総論②地域理学療法(川崎)	地域理学療法の定義や、地域における理学療法士の役割を説明できる。
4	総論②多職種連携(川崎)	多職種連携・施設連携を理解し、説明できる。
5	関連制度と関連法規 医療保険制度(川崎)	医療保険制度の目的を理解し、説明することができる。
6	関連制度と関連法規 介護保険制度①(川崎)	介護保険制度の理念と仕組みを理解し、説明することができる。
7	関連制度と関連法規 介護保険制度②(川崎)	介護保険サービスを説明することができる。
8	関連制度と関連法規 介護保険制度③(川崎)	介護予防、地域密着型、日常生活支援総合事業等のサービスを説明することができる。
9	一般介護予防事業①(川崎)	一般介護予防事業における事例報告・事例研究を調査し、定式化したのち、企画立案することができる。
10	一般介護予防事業②(川崎)	一般介護予防事業における実施内容をグループで討議し、資料を作成することができる。
11	一般介護予防事業③(川崎)	一般介護予防事業における実施内容をグループで討議し、資料を作成することができる。
12	一般介護予防事業演習①(川崎)	一般介護予防事業で企画した内容を実演することができる。
13	一般介護予防事業演習②(川崎)	一般介護予防事業で企画・実施した内容についてアンケート調査を行い、改善点を検討することができる。
14	生活機能の視点 生活行為向上マネジメントとは(渡辺)	生活行為向上マネジメントについて説明することができる。
15	生活行為向上マネジメントとは(演習)① (渡辺)	生活行為向上マネジメントの実施方法について説明することができる。

	成績評価方法										
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準						
定期試験	0			100	優(3):80点以上						
小テスト				評価なし	良(2):70点以上						
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上						
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得						
発表•作品				評価なし							
演習				評価なし							
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数						
担当教員	川﨑 裕史、渡辺 慎介	実務経験紹介	理学療法士として医療権	幾関に従事	、介護予防事業や健康増進事業等に携わってきた(川崎)。						

科目名			地域理学療法学	В		単位数	2	時間数	30		
授業形態	講義 対象学生 PT 3年 学期 後期						務経験	有	使用教室	302教室	
授業概要	我が国が直面 心として生活	我が国が直面している最大の課題は少子高齢化・人口減少への課題である。社会構造の変化に伴い地域理学療法の在り方が問われる中、本講では、関連サービスを中心として生活機能改善の可能性やリハビリテーションの技術、地域理学療法学について学習する。									
一般目標	地域理学療法	地域理学療法の関連サービスでの理学療法士の役割について説明できる									
テキスト 参考書等	地域リハビリテーション学(羊土社)										

知識(認知領域) ①地域理学療法の活動内容を知り、介護保険領域や介護予防分野での理学療法の意義、目的、内容を説明できる。 ②地域理学療法に必要な課題分析の方法を学び、ICFを活用しながらニーズ把握を行い、サービス内容の立案やプログラムにつなぐことができる。

技術(精神運動領域) なし

態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。

回数	授業内容	授業目標
1	訪問リハビリテーション①概要(杉山)	訪問リハビリテーション目的を説明することができる。理学療法士の役割を説明することができる。訪問リハビリテーションにおいて医療・介護との連携について説明することができる。
2	訪問リハビリテーション②事例紹介(杉山)	必要な知識・技術について知ることができる。 訪問リハビリテーション計画において、目標設定や活動と参加について知ることができる。
3	訪問リハビリテーション③事例検討(杉山)	利用様の在宅生活におけるリスク管理を説明することができる。
4	訪問リハビリテーション④ケアプラン作成 (杉山)	訪問リハビリテーション計画の立案および他の事業所との関連性について説明することができる。
5	通所リハビリテーション①概要(三戸)	サービスの種類について知ることができる。理学療法士の役割を説明することができる。 通所系サービスの機能と役割について説明することができる。 通所リハビリテーションと通所介護に違いを説明できる。
6	通所リハビリテーション②事例紹介(三戸)	必要な知識・技術について知ることができる。 訪問調査におけるポイントを説明できる。ゴール設定や活動と参加について知ることができる。
7	通所リハビリテーション③事例検討(三戸)	利用者様の情報から、在宅生活における危険予知を考えることができる。
8	通所リハビリテーション④ケアプラン作成 (三戸)	必要なサービスやリハビリテーション計画を考えることができる。
9	介護予防事業・転倒予防①地域包括ケアシステムにおける介護予防の考え方(綿 谷)	・地域包括ケアシステム構築の背景と介護予防・日常生活支援総合事業の概要を説明できる
10	介護予防事業・転倒予防②通いの場のマネジメント(綿谷)	・通いの場支援の意義と体操指導を踏まえたマネジメントについて説明できる
11	介護予防事業・転倒予防③地域ケア会議 の概要(綿谷)	・介護予防地域ケア会議の意義と理学療法士に求められる役割について説明できる
12	介護予防事業・転倒予防④地域ケア模擬 会議の実施(綿谷)	・介護予防地域ケア会議において自立支援に資する助言を行うことができる
13	事例検討①(小村)	・在宅復帰に向けた患者様の情報を整理し、問題点を列挙することができる
14	事例検討②(小村)	・必要なサービスを選択し、理学療法士として関わる場合の目標を立てることができる
15	事例検討③(小村)	・QOL向上のために必要なプランを立てることができる

	成績評価方法									
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準					
定期試験	0			100	優(3):80点以上					
小テスト				評価なし	良(2):70点以上					
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上					
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得					
発表•作品				評価なし						
演習				評価なし						
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数					
担当教員 杉山 英樹、綿谷 昌明、他 実務経験紹介 理学療法士として19年間訪問リハビリを実施し、現在、訪問リハビリ事業所管理者(杉山)										

科目名		世	界の理学療法セミ	ナー		単位数	1	時間数	15	
授業形態	講義	対象学生	PT 3年	学期	後期	教員実	務経験	有	使用教室	302
授業概要	海外の英語で書かれた論文を抄読し、英語力を高めるとともに、世界の理学療法の動向について学ぶ。									
一般目標	海外の英語で	海外の英語で書かれた論文を翻訳し、その内容について理解する。また、理学療法の国際的な動向について説明できる。								
テキスト 参考書等	必要に応じて資料を配布する。									

知識(認知領域) ・世界の理学療法の動向について学び、学んだことを列挙し、感想や考えを述べることができる。

技術(精神運動領域) ・論文の内容について翻訳とレポートを作成できる。

態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する) ・授業に出席する。

回数	授業内容	授業目標
1	海外論文の翻訳・抄読	海外論文の翻訳・抄読することができる。
2	海外論文の翻訳・抄読	海外論文の翻訳・抄読することができる。
3	海外論文の翻訳・抄読	海外論文の翻訳・抄読することができる。
4	海外論文の翻訳・抄読	海外論文の翻訳・抄読することができる。
5	海外論文のレポート作成と提出	海外論文のレポート作成と期限内にmoodle上に提出することができる。
6	海外論文のレポート作成と提出	海外論文のレポート作成と期限内にmoodle上に提出することができる。
7	海外論文のレポート作成と提出	海外論文のレポート作成と期限内にmoodle上に提出することができる。
8	海外論文のレポート作成と提出	海外論文のレポート作成と期限内にmoodle上に提出することができる。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

	成績評価方法									
	知識(認知領域) 技術(精神運動領域) 態度(情意領域) 評価割合 成績評価基準									
定期試験				評価なし	優(3):80点以上					
小テスト				評価なし	良(2):70点以上					
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上					
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得					
発表•作品	0	0		100						
演習				評価なし						
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数					
担当教員 島本 祐嗣 実務経験紹介 本校教員として国際交流関連の講義を担当している。										

科目名				単位数	2	時間数	30			
授業形態	講義	対象学生	PT 3年	学期	前期	教員実	務経験	有	使用教室	302教室・パソコン室
授業概要	研究法における基本的な流れや知識について学ぶ。グループ単位でテーマを決め、研究計画書の作成や倫理審査申請書類の作成を行う。									
一般目標	研究の流れや、研究に必要な基本的知識・技術を修得する。 グループでの卒業研究にとりかかるまでの準備状態をつくり、研究計画書・倫理審査申請書類の作成に必要な知識を修得する。									
テキスト 参考書等	テキスト:最新理学療法講座 理学療法研究法(医歯薬)、卒業論文作成の手引き2021年度版(配布プリント) 参考書:PT・OTのための臨床研究はじめの一歩(羊土社)、理学療法研究の進め方(文光堂)									

知識(認知領域) 研究デザイン、統計手法について説明することができる。

技術(精神運動領域) 研究計画書、倫理審査申請書を作成することができる。

態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。

回数	授業内容	授業目標
1	卒業研究発表会聴講	上級生の卒業研究発表会を聴講した上で、発表内容の要約を行い、研究に関する専門用語を列挙し調べることができる。
2	研究とは? なぜ研究が必要なのだろう	 ・クリニカルクエスチョンとリサーチクエスチョンを説明できる。 ・PICOとは何かを説明できる。 ・用語の定義・操作的定義を通してPICOを具体化できる。
3	研究デザインの基礎知識	・研究デザインの分類を説明できる。 ・ランダム化比較試験(RCT)の特徴を説明できる。 ・コンシールメント,プラインディングという用語の意味がわかる。
4	文献を探す方法	 ・文献検索のための各種データベースの特徴に応じた使い分けができる。 ・検索用キーワードの組み合わせができる。 ・得られた検索結果から、適当な情報を見極めることができる。
5	研究計画の立て方とバイアスの考慮	・研究計画書の概要を理解できる。 ・選択バイアス、情報バイアスとその対策法の説明ができる。 ・交絡バイアスとその対策法の説明ができる。
6	倫理申請の要点	・自分が実施しようとしている(実施した)研究を,介入・観察,侵襲の有無などの観点から適切に区分できる。 ・研究計画書,同意文書など研究倫理審査に必要な書類を作成することができる。
7	対象を決める・データをとる	・対象者を選ぶ手順を知る。 ・データのとり方の手順とコツを知り、限界を把握する。
8	データをとるための実践と統計ソフトの準備	 取得したデータを表計算ソフトウェアへ入力できる。 統計ソフトに読み込める形のデータを作成するときの留意点を説明できる。 統計ソフト(Rコマンダー)をインストールし、データの読み込みができる。
9	統計解析の準備と簡単な検定	・記述統計で使用する代表値や散布度を説明できる。 ・記述統計量を用いる意味を理解し適切に記述できる。 ・さまざまなグラフの特徴と観察の要点を説明できる。
10	統計解析の実際:2変量解析	・統計解析の基本である2変数の平均・中央値の差の検定, 相関, 分割表の検定(χ2 検定)について概略を説明できる。 ・2変数の平均・中央値の差の検定, 相関, 分割表の検定(χ2 検定)について統計ソフトを用いた簡単な操作が理解できる。 ・2変数の平均・中央値の差の検定, 相関, 分割表の検定(χ2検定)について結果に関する, おおまかな解釈ができる。
11	統計解析の実際:分散分析	・分散分析の概要を理解する。 ・分散分析の種類と適用の仕方・手順を知る。 ・分散分析の結果に関する解釈のポイントを知る。
12	統計解析の実際:多変量解析	・多変量解析の概略を説明できる。 ・重回帰分析、多重ロジスティック回帰分析の目的,簡単な手順を理解できる。 ・オッズ比と関連した臨床判断指標を理解できる。
13	学会発表に向けて	 ・演題登録を登録する際のオーサーシップ(著者の資格)を理解することができる。 ・口述発表におけるプレゼンテーションスライド作成の注意点を理解することができる。 ・ポスター発表におけるプレゼンテーション効果を向上させるポスター作成の留意点を理解することができる。
14	論文の執筆	・論文の構成について説明できる。 ・論文の共著者となるための条件を説明できる。 ・論文の緒言や対象と方法、結果、考察で記載すべき内容について説明できる。
15	研究不正行為と引用・転載の注意点	・特定研究不正行為(ねつ造,改ざん,盗用)について説明できる。 ・その他の不正行為(二重投稿,サラミ論文,不適正なオーサーシップなど)について説明できる。 ・引用と転載の違い,引用の仕方,転載の手続き方法を説明できる。

	成績評価方法										
	知識(認知領域) 技術(精神運動領域) 態度(情意領域) 評価割合 成績評価基準										
定期試験	0			100	優(3):80点以上						
小テスト				評価なし	良(2):70点以上						
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上						
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得						
発表•作品				評価なし							
演習				評価なし							
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数						
担当教員 川崎 裕史 実務経験紹介 本校教員として研究法の講義を担当し、卒業研究の指導を行っている。											

科目名			卒業研究 I B			単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT 3年	学期	前期	教員実	教員実務経験		使用教室	302教室・パソコン室
授業概要	卒業論文の作成に併せて、論文を作成するために必要な文献の取り扱い並びに、統計処理について学ぶ。									
一般目標	・他者の論文を批判的な視点で丁寧に読み、要約して発表することができる。 ・他者の論文から学んだことを、自分たちの卒業論文に応用することができる。 ・基本的な統計処理を行うことができる。									
	テキスト:最新理学療法学講座 理学療法研究法(医歯薬)、卒業論文作成の手引き2021年度版(配布プリント) 参考書:フリー統計ソフトEZRで誰でも簡単統計解析(南江堂)、すぐできる!リハビリテーション統計(南江堂)、みんなの医療統計多変量解析編(講談社)、									

- 知識(認知領域)
 ・文献を批判的な視点で要約できる。
 ・研究に必要な統計検定を選択することができる。

- 技術(精神運動領域)
 ・必要な文献を検索することができる。
 ・統計ソフトを使用して、統計処理をすることができる。

態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する) ・授業に出席する。

回数	授業内容	授業目標							
1	データの要約	正規分布やデータの代表値を説明することができる。							
2	ヒストグラムの作成	Excel、Rを使用し、ヒストグラムを作成するなど、データを視覚的・数値的に示すことが出来る。							
3	統計手法の選択	検定選択フローチャートを使用し、研究で扱うデータの条件に応じた統計手法を選択することができる。							
4	2群の差のパラメトリック検定	Excel、Rを使用し、t検定の結果を示した上で、検定結果を説明することができる。							
5	3群の差のパラメトリック検定	分散分析、ノンパラメトリック検定を説明することができる。							
6	3群の差のパラメトリック検定	Excel、Rを使用し、分散分析の結果を示した上で、検定結果を説明することができる。							
7	相関分析•回帰分析	相関分析・単回帰分析を説明することができる。							
8	相関分析•単回帰分析	Excel、Rを使用し、相関分析・単回帰分析の結果を示した上で、検定結果を説明することができる。							
9	多変量解析	多変量解析を説明することができる。							
10	多変量解析	Excel、Rを使用し、多変量解析の結果を示した上で、統計結果を説明することができる。							
11	文献収集	卒業研究に必要な文献を収集することができる。							
12	文献収集	卒業研究に必要な文献を収集することができる。							
13	統計処理	卒業研究に必要な統計処理を選択し、研究計画書に記載することができる							
14	構想発表スライド作成	テーマ、研究の目的、研究の背景・動機、研究の特色・意義、研究の方法・計画などをスライドにまとめ、発表することができる。							
15	倫理審査書類作成	統計手法を踏まえて倫理審査書類を作成することができる。							

成績評価方法									
知識(認知領域) 技術(精神運動領域) 態度(情意領域) 評価割合 成績評価基準									
定期試験	0			100	優(3):80点以上				
小テスト				評価なし	良(2):70点以上				
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上				
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得				
発表•作品				評価なし					
演習		0		評価なし					
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数				
担当教員 川崎 裕史 実務経験紹介 本校教員として研究法の講義を担当し、卒業研究の指導を行っている。									

科目名			卒業研究Ⅱ		単位数	3	時間数	90		
授業形態	演習	対象学生	PT 3年 PT 4年	学期	前期•後期 前期		教員実務経験		使用教室	302教室
授業概要	指導教員の指導を受けながらグループごとに研究テーマを決め、論文作成・卒論発表会までを行う。									
一般目標	グループごとに研究テーマを決め研究の基本的プロセスを修得する。 卒論発表会においてその成果を発表する技術を身に付ける。									
テキスト 参考書等	最新理学療法学講座 理学療法研究法(医歯薬出版)、卒業論文作成の手引き 2021年度版(配布プリント)									

知識(認知領域) 研究用語や研究デザイン、統計手法について説明できる。

技術(精神運動領域) 研究計画書作成、倫理審査承認、統計、論文作成、スライド発表を実施できる。

態度(情意領域) 研究に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)

回数	授業内容	授業目標
1~5	文献収集·整理	研究に必要な文献を適切に収集・整理することができる。
6~9	研究テーマの選択、研究計画構想	倫理的に配慮した新規性のある研究課題を選択し、研究計画を立案することができる。
10	構想発表会	研究背景、目的、対象、方法についてスライド発表を実施できる。
11~15	倫理審査書類を作成し、 審査において承認を得る	倫理審査書類を作成し、審査において承認を得ることができる。
16~25	データ収集	研究計画に従い、データ収集を適切に行うことができる。
26~30	データ解析	データに対して適切な統計手法を用いて解析を行うことができる。
31~34	考察	データ解析の結果を根拠を交えて客観的かつ簡潔に述べることができる
35	中間発表会	研究の進捗状況について発表を行うことができる。
36~40	卒業論文作成	卒業論文を完成させることができる。
41~43	発表スライド作成	発表スライドを完成させることができる。
44~45	卒業論文発表会	研究成果を発表することができる。

成績評価方法							
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準		
定期試験				評価なし	優(3):80点以上		
小テスト				評価なし	良(2):70点以上		
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上		
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得		
発表•作品	0	0		100			
演習				評価なし			
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数		
担当教員	実務経験紹介	本校教員として卒業研究の講義を担当している。					

科目名	臨床実習B				単位数	3	時間数	135		
授業形態	実習	対象学生	PT 3年	学期	後期	教員集	聚経験	有	使用教室	なし
授業概要	クリニカル・クラークシップ形式の実習のもと、診療参加を経験しながら、各疾患において用いられる評価を経験し、評価技術を身に付けるとともに各評価の意義を学ぶ。 学内実習はリモートによる実施とし、臨床実習に必要な前提知識の確認や模擬症例検討による問題解決型学習を推進し、臨床的思考を養う。									
一般目標	・臨床実習のチェックリスト上にある「理学療法に関する情報収集・検査測定項目」について、可能な限りその多くを模倣レベル以上習得する。 ・実習後は実習中に作成したポートフォリオを基に凝縮ポートフォリオを作成し、臨床的思考を文章化したうえで適切に報告する。									
テキスト 参考書等	3年次臨床実習ガイドブックを実習前に配布予定									

知識(認知領域) ・実習前に1年次・2年次に履修した専門基礎科目・専門科目の復習ができる。

- 技術(精神運動領域)
 ・臨床実習のチェックリスト上にある「理学療法に関する情報収集・検査測定項目」について、可能な限りその多くを模倣レベル以上習得する。
 ・実習後は実習中に作成したポートフォリオを基に凝縮ポートフォリオを作成し、臨床的思考を文章化したうえで適切に報告することができる。

態度(情意領域) ・意欲的に実習に取り組む姿勢を持つことができる。

回数	授業内容	授業目標
1		
2		
3		
4		
5		
6	各臨床実習施設において臨床参加をしながら、以下の項目を経験する	クリニカル・クラークシップ形式の実習のもと、診療参加を経験しながら、 ①実習前に1年次・2年次に履修した専門基礎科目・専門科目の復習ができる。
7	I.職業人としての習慣・態度・業務理解 (主に情意領域)	②臨床現場で求められる常識的態度や、責任のある行動をとることができる。 意欲的に実習に取り組む姿勢を持つことができるができる。 ②対象者(患者様・利用者様)とコニケーションをレスことができる。
8	Ⅱ. 基本的な理学療法の実施過程の体験1)理学療法評価・治療の見学および体験 (主に精神運動領域)	④臨床現場において疾患や障害を自己の目で観察できる。(見学)⑤理学療法評価、治療的介入で見学・体験した内容について、模倣以上また、いくつか実施に至る。⑥リスク管理に対する意識を養うとともに衛生・安全面の配慮ができる。⑦個人情報保護、守秘義務等、医療人に必要な倫理観に基づいて行動ができる。
9	2)理学療法評価・治療の選択 (主に認知領域) ポートフォリオ内で整理し記載	③実習先である医療機関・施設の機能・役割を説明できる。 ④各医療職の役割とチーム医療について説明できる。 ⑩臨床実習ポートフォリオ(資料集)を作成し、その内容をまとめることができる。 ⑪⑤、⑥で経験した内容を学内で再学習し、専門用語を用いて報告できる。
10	Ⅲ. 理学療法士観の育成 (情意領域)	②理学療法士を目指す目的意識を一層強固なものにすることができる。
11		
12		
13		
14		
15		

成績評価方法							
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準		
定期試験				評価なし	優(3):80点以上		
小テスト				評価なし	良(2):70点以上		
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上		
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得		
発表•作品	0			80			
演習		0		20			
出席			0	欠格条件	()内はGPA点数		
担当教員 島本 祐嗣、川崎 裕史、他 実務経験紹介 理学療法士として医療機関に従事し、臨床実習業務に携わってきた。							